



《発行所》

青山同窓会  
〒951-8127 新潟市関屋下川原町 2-635  
新潟県立新潟高等学校内  
TEL 025-266-5268  
FAX 025-266-5268

《編集・発行人》

上村 光司

《印刷所》

オリオン印刷株式会社  
〒950-0963 新潟市南出来島1-19-1  
TEL 025-283-2151  
FAX 025-283-3804

# ごあいさつ

上村 光司 (50回)



あります。

このごろ新聞やテレビでうつ(鬱)という言葉を見聞きすることが多くなりました。気にし始めると自分のうつかいなど思い当たるころがあつたりして、これでは世の中、ますますうつになりそうです。

とは申せ、各界で同窓のご活躍ぶりは心強く、新聞などに寄稿者や”時の人”の略歴が出て、新潟出身とあれば同窓会名簿を開き、お名前があるとひとりでニコニコする。いいもので

すが、同窓会の在り方に新風を吹き込んでくださるだろうと期待しています。

それにしても同窓会というものは、どれも、どこでも、「長幼序あり」の古来のルールが生きております。このルール、当世すつかり流行らなくなつてしまいましたが、年に一、二度はこの単純極まりない長幼の序の世界に身を置いてみるのも悪くないと、このごろ感じるようになりました。

というのも日本中で年功序列廃止、成果主義の大合唱で、政治・経済の停滞を突き破るため必要だとは理解するけれど、大多数の人には、やはり疲れるものではないでしょうか。価値観の多様化というの格好いい言葉もありますが、これも凡人にとつては、強がりか逃げ口上がいいところ。浮世のいろいろな座標を取り扱った長幼の集いが、同輩

放談清談し、先輩諸氏に元氣を出してもらおう、心の養生の場になればありがたいと思つています。

この半年、幾つかの計報に接しました。福田実さん(75回)

のことは痛惜の一語に尽きます。平成十三年七月の総会で同窓会副会長に就任をお願いしました。たまたま総会実行委員長であつたのですが、その両方を兼ねるといふ異例のお働きとなりました。わが同窓会、県の建設業界はもちろん、多方面にわたつて次代のリーダーの一人と嘱望されていただけに、残念です。

長い間事務局をあずかつて生き字引的存在だつた岩田はすう思います。

枝さんも逝きました。私は青山同窓会の新紀元は昭和二十九年(一九五四)校舎焼失の年だと考えています。明治四十三年(一九一〇)に新潟中学校同窓会結成と青山百年史にあります

が、現在のような大衆的同窓会になつたのは、母校復興のための組織づくり、募金に結集した同窓各位の熱気が、今も続いて

いるからだと見るからです。岩田さんは古町六の萬松堂二階にあつた「青山倶楽部」に勤めていたのが縁で同窓会の事務局員となつた。以後のことは追悼記に譲りますが、青山同窓会は彼女終生の生き甲斐でした。生き甲斐を持つた人は強いし、そういう人を持つた組織も強い。そう

福山健さん(39回)も、この校舎復興とその後の難局の時期に尽力されていた姿を思い出します。

話が説教くさくなつてしまいました。このごろうつの氣を取り払う妙薬を再発見しました。會津八一先輩のご存じ「学規」です。これを大声で唱えると、背骨がシャンとするよ

うです。  
一、ふかくこの生を愛すべし  
一、かへりみて己を知るべし  
一、学藝を以て性を養ふべし  
一、日々新面目あるべし  
お試しになつてはいかがでしょうか。

## 学校完全週五日制と

### 土曜活用について

PTA会長 吉田至夫 (79回)

平成十五年度のPTA会長に選任されました79回生の吉田です。同窓会の皆様には、平素より在校生のために格別のご理解とご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

本校のPTA活動の最大のト

し、土曜日の午前中に補習や講習を実施するもので、発足当時は県内でも初の試みとして注目されました。

初年度は七月からの開始でしたが、模擬試験と合わせ第一学年十三回、第二学年十六回、第三学年十四回と、ほとんどの生徒の参加をもとに実施することができました。第三学年のその後の大健闘については「後輩の進路」に譲るとして、あらためて学校長はじめ教職員、関係各

位の皆様に厚くお礼申し上げます。本年度も第一学年十五回、第二学年十八回、第三学年十九回を計画、去る五月二十四日のPTA総会で了承されたところであります。

本校最大の伝統行事である青陵祭も第四十二回を数え、この六月十四日、元氣いっぱい開催されました。女子生徒の多さに先は驚き、これでは闇練はさぞ

や楽しかろうと、自らの当時は振り返りPTA会長に不適切な感想を持つたりしましたが、天にこだまする丈夫の斉唱とともに我が青陵健児の活躍に大いに意を強くいたしました。特に表現力と言いますか、事象をストリートにとらえ切る感性に二十一世紀の息吹を感じました。

や学校関係者の皆様。そして何よりも主人公である生徒達のひたむきさであります。しかしIT社会における情報の氾濫や揺れ動く教育行政など環境は必ずしも順風だけとはまいません。今後とも、各方面で活躍されておられる同窓会の皆様の熱きご指導をお願い申しあげたいと思っております。

田昭氏(75回)からは「政令指定都市」へ向けた今後の具体的な話もありました。続いて新入コールのあと、11回生を代表して酒井克直君が緊張しながらも立派な挨拶をしました。今年も、新潟から卒業学年の担任であった町田先生、生田先生と校内幹事の玉木先生の三人が出席して下さいました。当日出席した111回生は十八名で例年より多くの出席がありました。懇親会ではあちらこちらで先生方と卒業生の輪ができ、大学生活の様子に話が弾み時間の経つのも忘れてしまったかのようでした。

卒業して三ヶ月足らずの間に見違えるように成長し、立派になった姿に先生方も大変喜んでおられました。来年度は是非卒業式前にこの「新人歓迎会」を紹介し、大勢の出席を期待したいものです。会の締めは、島津孝氏(84回)が旧制校歌、小橋川嘉樹氏(107回)が新制校歌、そして、五十嵐悠介氏(107回)が応援歌「ますらお」の音頭をとられ全員で斉唱、出席者の心が「青山」ひとつになり無事終了しました。

そして、二次会と……



**東京青山同窓会長  
栗林氏  
勲二等瑞宝章受賞**



東京青山同窓会会長である栗林貞一氏(59回)が春の叙勲において勲二等瑞宝章を受章されました。

栗林氏は新潟高校在学中にはテニス部に所属するスポーツマンであり、現役で東京大学へ進学後国家公務員上級職試験に合格。運輸省に奉職後、数々の要職を歴任。海上保安庁長官を最後に退官されました。

**東京青山同窓会**

二〇〇三年度

**新人歓迎会**

**講演会**

梅雨空の六月二十七日

(金) 東京全日空ホテルで

東京青山同窓会が開催されました。副会長の小林元雄氏(61回)の開会の辞に続いて、会長の栗林貞一氏(59回)の挨拶で会が始まりました。

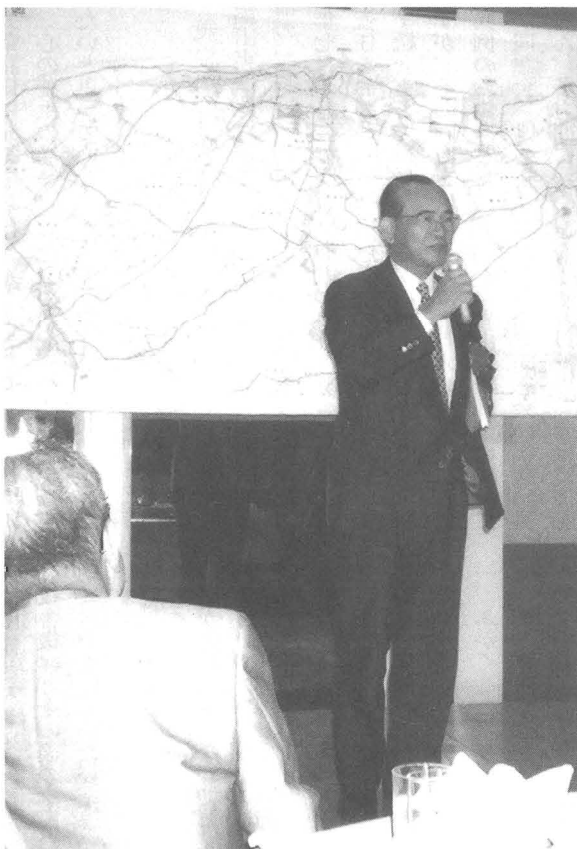
青山同窓会会長の上村光司氏(50回)の挨拶の中で、この七月をもって辞任したい旨の発言がありました。

講演会は「まちづくり・新潟都市圏の動向」と題して、長谷川義明氏(61回)が、地球創造期から現代までの新潟の歴史を中心に話された後、三期十二年の在職中の経験をふまえて「政令指定都市」への大きな夢を期待したいものです。

その後、新潟市長の篠

田昭氏(75回)からは「政令指定都市」へ向けた今後の具体的な話もありました。続いて新入コールのあと、11回生を代表して酒井克直君が緊張しながらも立派な挨拶をしました。今年も、新潟から卒業学年の担任であった町田先生、生田先生と校内幹事の玉木先生の三人が出席して下さいました。当日出席した111回生は十八名で例年より多くの出席がありました。懇親会ではあちらこちらで先生方と卒業生の輪ができ、大学生活の様子に話が弾み時間の経つのも忘れてしまったかのようでした。

卒業して三ヶ月足らずの間に見違えるように成長し、立派になった姿に先生方も大変喜んでおられました。来年度は是非卒業式前にこの「新人歓迎会」を紹介し、大勢の出席を期待したいものです。会の締めは、島津孝氏(84回)が旧制校歌、小橋川嘉樹氏(107回)が新制校歌、そして、五十嵐悠介氏(107回)が応援歌「ますらお」の音頭をとられ全員で斉唱、出席者の心が「青山」ひとつになり無事終了しました。



# 教育実習

宮内 壮史 (106回)

私たちは六月二日から十四日までの二週間母校である新潟高校で教育実習をさせて頂きました。

私は二年間旧校舎で高校生生活を過ごしたため、新校舎に入るのは初めてでありました。はじめての教育実習の緊張と新校舎に入るといふ緊張とが重なって実習が始まってからの三、四日間は不安な思いでいっぱいでした。また、私は家庭教師や塾講師などをした経験がなかったため人に何かを「教える」ことが初めてであり、最初の実習授業は学会への参加経験があったため緊張はしなかったのですが、授業内容は悲惨なものでありました。その悲惨さを何とか克服しようとはじめの一

週間は生徒のことや学校生活のことを考えられず、自分の勉強に追われる毎日でありました。二週目に入ると多少の余裕が出てきて、青陵祭準備真っ只中の校内やグラウンド、海浜公園などを回り、いろいろな生徒と話をしようと思つたようにしました。すると、廊下を歩いても毎日生徒から話しかけられるようになり、日々の実習生活がとても充実したものとなりました。私はそれまで、如何にわかりやすい授業にするか、板書をどのようにしたら見やすいか、など授業の進め方を第一に考えておりました。確かに、予備校や塾ではそれでいいのかもしれませんが、学校という場所はそれではいけないとききました。一日の半分以上をともに過ごしている生徒たちの気持ちがある程度理解し、如何に学校生活そのものを楽しませてやる事ができるかも教師の役目であると気づいたのでした。振り返ってみれば私は高校時代、とてもいい友達、先生に囲まれていたような気がします。

実習の最終日は毎年恒例の『青陵祭』でありました。生徒たちは連合創造、応援合戦、バ

ック、競技と本当にがんばっており、このいつになっても変わらない生徒たちの一生懸命さと『青陵祭』に感動するともに本当に懐かしく感じました。

最後に、お忙しい時間を私たちが実習生に割いてくださった先生方、教え方もままならない

授業を真剣に聞いてくれた生徒の皆さんに感謝いたします。もう二度とないこの経験を忘れることなく今後の人生を突き進むものにしていききたいと思えます。本当にありがとうございました。

## 59期新春同期会

中野 文郎 (59回)

我等59期生は、昭和二十年第二次大戦の終結間近四月に新潟中学校に入学した。第二次大戦の勃発した昭和十六年頃から物資が戦場に送られたためか、すべて欠乏時代を迎え、「欲しがりません勝つまでは」とか「常在戦場不平安し」といった標語を口ずさみ育った者達である。特に二十年の終戦以降、着るもの、履くもの、住むところ、殊に食糧は日々事欠く有り様で、腹を減らしたの思春期、青春時代を送ったのである。このような悲惨な生活環境の中であつたが、雄々しく育ち、欠乏生活を克服してきた強い精神力を身につけて豊かな経済大国日本を

昨年五月、岩室温泉において催された「古希の祝いの集い」は諸般の事情から参加者が少なかったが、今回は二十八名の方々の参加を得て、新年早々の一月十九日新潟市東映ホテルにて開催された。二十五年来は毎年続いて開かれていたのも、伊佐幹事長をはじめ幹事の方々の奮迅のご尽力のお陰と感謝々々である。

定刻十八時丁度に司会宮田兼好君の挨拶で開始、旧校歌斉唱に続いて、亡くなられた同期生の全ての方のご冥福を祈つて黙祷を捧げる。七十の齢を越えたせいも、寂しく覚え、無常の感も一入である。

伊佐修幹事長から最近の同

期生の動向や我等同期会開催経過をふまえた詳細な報告と共にこの度行われた(十一月十日)新潟市長選挙にこぞつて推し、見事当選を果たされた75期生篠田昭氏の紹介があつた。

ついで当の新市長篠田氏が非常にお忙しい中を厭わず馳せ参じて来られ、今回の選挙で物心両面にわたり支援・協力をいただいたお礼の言葉から、今後の新潟市の発展(新たな産業の開拓・政令都市構築等)に粉骨碎身の努力を惜しまぬ決意をこめられてのご挨拶があり、会場から一斉に拍手が沸き起こる。やや沈んだ空気が、ぱつと明るさを取り戻したような感じがした。

笹川一雄君の乾杯で開宴、以下五十年前の青春時代に逆戻り時の過ぎるのを忘れて盃を飛ばして歓談に耽つた。

懐かしい顔と顔、久闊を叙し日頃なにかとたまっているストレスも払拭されたような、何度でも味わいたい、快い一時であつた。

我等59期の同期会が和気あいあいのうちに、永年にわたり継続されているのは、お互いがお互いを大切に思っているからであらう。



人間が人間を大事にする。人間とは人と書き、人の間、人の居るところ、人の住んでいる場、人の世、世間といった意と国語辞典にもみえる。そこに人間味・人間愛・人情が生じてくるのであり、人間の機微の中から人間模様が醸し出されるのだと思う。こうした人間関係を大切にこそ豊かな人間性が

## 卒業五十周年

### 記念同期会に寄せて

今井晃・加藤栄一（61回）

平成十五年六月一日、五年毎に行われている東京・新潟合同の青山61回卒業五十周年記念同期会が月岡温泉「ホテル清風苑」で開催された。恩師の大橋禎助先生も喜んでかけつけていただき、同期、七十五名の大所帯が参集した。以下、日程にそって報告する。六月一日、午後一時三十分、新装調った新潟高等学校に集合。四〇〇人収容可能な視聴覚教室で高橋竹秀こと小林史佳君（青山101回卒）の津軽三味線を鑑賞。じよんが風の曲、現代風にアレンジされ

培われるのであろう。なお同期生から平成十四年の秋の叙勲に三名の方が受章の榮に浴され、平成十二年度受章と合わせて四名にのぼったことは喜ばしい限りである。

我が同期会がより多くの参加者を得て、更に永く続いていくことを望むものである。

白くなった人、お互い行年七十才の重みを実感した次第である。いよいよ懇親会が小杉修一君の進行で始まる。まず、物故者（四十二名）への黙祷、年々逝去される人数が増えていく。寂しい限りである。閉会の挨拶と新旧校歌の指揮は幹事長の江口良助君、つづいて前市長の長谷川義昭君から市長時代にうけた支援の謝辞をもらい、大橋禎助先生のご挨拶と乾杯のご発声で宴会の幕開けである。「いや、久しぶり」「体の調子は？孫は？」「あつちの方はどう？」など五十年前に戻り、ワイワイ

無事、大過なしを祈りながら帰路に着いた。（今井 晃記）

めこのチームがそのまま勝った。これは頭の勝利だと智将星野の采配を絶賛。実力派の村木、星野を軸に、波の多い渡辺、運が上昇中の平原を加えた布陣は完璧なベリア戦仕様、そして各々が自分の役割を確実に果たしたと。個人優勝の村木君については、力強いスイングと若々しい容貌に、年齢詐称ではないかと報じている。次にB紙は六十二回生を語るにはAG会の存在を無視出来ない、二十六年に及ぶ会の活動を紹介した。AGとはA組からG組まで同期全員の意で、一九七七年に十二名でゴルフ大会を開催、今秋五十三回を迎える。これまでの参加者は七十七名、現在会員数約七十名、毎回三十余名の参加者があり、東京からも多数が駆けつける、驚きは今でも入会者が絶えないと言う。会は永久幹事平原が事務を引き受け、数名の幹事達と行事を定める。会員は大会に極力参加する、参加できない人も自分出来ることで会に貢献する。皆が会の必要性を自覚している事が長続きの要因とし、そこで培われた力と結束が今回の勝利につながったと結論付けた。またC紙は夜の表彰式で一番元気な勝負師渡辺君が「我々は何

た激しいリズムの曲等解説入りで聴かせていただいた。音響効果抜群の教室にその素晴らしい演奏が響き渡り感激ひとしおであった。東京・その外県外から来た人たちは新校舎を見るのは初めてであったので教頭先生から図書館、アリーナ、プールなどの施設を見学させていただいた。午後三時、校舎に別れをつけビッグスワンや福島潟などを見学しながらホテルに到着。受けを済まし入浴等で自由時間を過ごす。午後六時、懇親会場を過ぎ、午後六時、懇親会場のステージで全員で記念撮影、壇上から皆さんの後頭部を拝見、頭髮の薄くなった人、すっかり

久し振り」「体の調子は？孫は？」「あつちの方はどう？」など五十年前に戻り、ワイワイガヤガヤ、卒業後初めて顔を見せた人達もすっかり昔に戻っている。三時間にわたる大宴会も岸田哲男君の音頭による応援歌の大合唱、東京幹事の安宅久憲君の閉会の挨拶で幕を閉じた。二次会も余韻さめやらぬ連中が大勢集まり終わりをつげたのは午前であった。半世紀五十年が一瞬で高校時代に戻り若やいだ気分になることが出来た。同期生は減ることばかりで絶対増えることのない仲間の集まりである。今後五年後、十年後の再会を祈念しあった同期会ではあったが果たしてどの様な姿になっていくものか。われわれ仲間

各自の思惑とはだいぶ、ずれがあつたようだが、素晴らしい天候と楽しいプレーのなか、優勝は倉茂周典君（釜石・49・49・ネット）<sup>72.8</sup>、準優勝は佐々木繁君（新

めこのチームがそのまま勝った。これは頭の勝利だと智将星野の采配を絶賛。実力派の村木、星野を軸に、波の多い渡辺、運が上昇中の平原を加えた布陣は完璧なベリア戦仕様、そして各々が自分の役割を確実に果たしたと。個人優勝の村木君については、力強いスイングと若々しい容貌に、年齢詐称ではないかと報じている。次にB紙は六十二回生を語るにはAG会の存在を無視出来ない、二十六年に及ぶ会の活動を紹介した。AGとはA組からG組まで同期全員の意で、一九七七年に十二名でゴルフ大会を開催、今秋五十三回を迎える。これまでの参加者は七十七名、現在会員数約七十名、毎回三十余名の参加者があり、東京からも多数が駆けつける、驚きは今でも入会者が絶えないと言う。会は永久幹事平原が事務を引き受け、数名の幹事達と行事を定める。会員は大会に極力参加する、参加できない人も自分出来ることで会に貢献する。皆が会の必要性を自覚している事が長続きの要因とし、そこで培われた力と結束が今回の勝利につながったと結論付けた。またC紙は夜の表彰式で一番元気な勝負師渡辺君が「我々は何

## 62回生二冠に輝く

平原 康男（62回）

第十五回青山OB会ゴルフ会は五月二十五日、好天に恵まれた中峰ゴルフクラブで開催され、個人戦は村木修君が優勝、団体戦も六十二回生チーム（星野陸

夫、村木修、渡辺富二雄、平原康男）がいずれも初参加で優勝をさらった。この快挙にスポーツ各紙は最大級の賛辞を贈った。A紙は団体戦について「勝った



（加藤栄一記）



時でも挑戦を受ける用意がある、ご希望でグレートもG1馬から未勝利馬まで詠えます」と豪語したと伝え、これでは他のOB達も黙っては引き下がれまい、今後の青山OB会は激烈な優勝争いが起こり、参加者も増大するだろうと結んだ。我々の勝利が大反響を呼び、青山OB会の発展に寄与出来るならば、六十二回生にとって最高の勳章となるでしょう。

### 第71回生「さんぱち会」

## 卒業四十周年記念総会

中村 英一 (71回)

卒業の年、昭和三十八年をそっくり冠した七十一回生の「さんぱち会」は五年毎の開催である。代表幹事山内幹夫君の強力なるリーダーシップのもと(と言ふよりは山内君と会計幹事の若林君の号令に頼り切っているのが実情だが)、各クラス幹事の集いとなった。

### 第81回卒業生

## 二〇〇周年の集い

砂田徹也 (81回)

六月七日(土曜日)午後六時三〇分から、ホテル日航新潟にて開催された。第81回卒業生一〇〇名、担任の先生七名、総勢二七名が大いに飲み、かつ、楽しんだ。

実は第八一回卒業生の集いは、平成五年の二〇周年、平成一〇年の二五周年に次いで三回目である。今回は、「五〇歳になる前に集まろうよ」を合言葉に今年に入ってから準備に取りかかった。呼びかけ人の数は二五名、数回の準備会を経て当日を迎え

た。

当日の司会は、F M新潟の山本林太郎氏(九組卒)。司会だけではなく、パーティーの進行全般を丸投げでお願いした。松沢昭然先生の乾杯の音頭は、「最近では減多に壇の上にあがる機会がない。今日は久しぶりに壇の上に入ったので現役時代を思い出して講義でも・・・」といった先生一流のジョークで始まり、何度も何度も爆笑を誘った。

次に、出席者全員の二〇秒

自己紹介。クラスごとに先生に引き連れられるようにして壇上にあがり、一人ずつ自己紹介するのであるが、単純に計算しても全員が終了するまで四〇分近くかかる。しかし、本当に久しぶりの再会だからであろう。全員が一人ひとりの自己紹介に注目するといった感じでザワつくこともなく、山本氏の合の手とともにリズムカルに進んでいった。

そして、ビンゴ大会。二次会費争奪戦と銘打ってクラス対抗形式となった。熱戦の末、四組が獲得。あわせて、次回三五周年の集いの幹事役というオマケ付きであった。

最後に呼びかけ人の紹介、

◆ ◆ ◆

週が明けて、呼びかけ人の慰労会をやるうかと日程調整に乗り出したが、これがなかなか入らない。そこで、七月二五日の青山同窓会総会当日に慰労会を兼ねて集まろうということになった。今年の総会には第81回卒は何人集まるだろう。「乞うご期待」である。

感じたひと多いのでは。

県外勢も多数参加。最遠は山口県は宇部市からの五組五十嵐 勤君。ご苦労様。しっかりと中締めをしていただきまし

た。「その後の四十年」を語るには話が尽きぬ二時間余、続きはグループ毎の二次会に受け継がれ、新潟の夜を彩った「さんぱち会」であった。

還暦直前の会員諸氏のますますの健勝と、次回は無事なる再会を心から願うものである。



# 青々会(アオアオカイ)

## 発足の御報告

渡辺 毅(85回)

青山同窓会の比較的青年層による飲み会——略して青々会(アオアオカイ)なるものが、このたび発足致しました。その経緯と概要を御報告させて頂きま

す。 発端は、去年のホテル新潟に於ける青山同窓会総会でした。広い会場を埋め尽くした諸先輩に圧倒され、出入り口に近い片隅に肩身狭く固まっていた、会場でも卒業年次の新しい面々が、誰からともなく、「若い者だけでまとまって二次会をやる

ではないか」ということになりました。八十期代から九十期代に渡るお互い多く初対面のメンバーによる合同二次会となりましたが、そこは同じ青陵健児のこと、大いに飲みかつ談じ大変楽しい会となりました。

この時のメンバーを中心に、次第に人数を増やしながら何度か飲み会を開催してきましたが、この際として名前をつけコンセプト(と云うのも大

セプトです。 非常に大ざっぱな会ですの代表も置かず、規定もなく、年に3、4回開催して行きたいと考えております。下は十八才から上は「俺は同窓会ではまだまだ若手だ!」とお考えの大先輩に至る迄、広く御参加下さいますようお願い申し上げます。

御連絡先は渡辺 毅まで、『次回から参加希望』とメールかFAXにてお願いします。 メールアドレス watanabe@midori-gr.jp FAX 025-244-0005

## 青山三八会通信連絡

幹事長 近藤 圓(38回)

幹事長として毎年一・二回の通信連絡をしているが、最近

は次の年賀状を出した。

かご自愛ください。昨年は吉田正男君が六月十一日に前立腺ガンで、田中松一君が十月二十五日に肺炎でなくなりました。皆さんと共にご冥福をお祈りしましょう。右のお二人が私の知る

その後の物故者です。もし他に仲間の逝去等ありましたら御一報下さい。

去る九月三十日発行の創立百十周年記念の名簿から「三八会」(分だけコピーにて進呈いたします。新潟も昨年はワールドカップサッカーのお祭り騒ぎがあり、その後先日は新潟市長選挙、今まで三期勤めた青山の仲間、六十一回の長谷川義明氏でしたが今回も青山七十五回の篠田旅館の二男坊、篠田昭氏が新商OBの渡辺という助役を破って当選しました。上智大学卒、新潟日報の論説委員、若いインテリ市長です。右年頭のご挨拶とします。ご多幸を祈ります。

草々 平成十五年元旦 青山三八回幹事長 近藤 圓 電話 〇二五二七一一四一九五

## 旧校歌石碑寄贈の思い出

河合 忠衛(53回)

新築改築された県立新潟高校新校舎の校門に入った左側に、校歌(玲瓏の天)の石碑が建立されている。そのすぐ右側は「青陵健児の像」が並んで建っている。

手がけた53回卒業生の一人としてその当時のことを懐かしく思い出している。

昭和二十年三月に名古屋で卒業式を行った時はかなり減っていた。青山百十周年の同窓会名簿によれば、消息不明の人三十三名、亡くなられた人六十名で、生存者は百八十名となっている。

製作者・日展審査委員36回渡辺徹氏のでよくわかる。今から十五年、校歌石碑の寄附建立を

長一君、幹事白井勇君、橋本一弥君(故人)、柘瀧昭夫君を中心

に前年より建立の準備作業が開始された。石碑の施工は白根市で石材店経営の川口信夫君(現在、病療養中)が請け負い、一週間も現場の校庭に通って仕事に精を出し。正面の旧校歌一番の毛筆書は、新潟市内の中学校に勤務し、書道教室の先生をしていた高須芳夫君(雅号・契雲。学校町二在住)から墨こん

鮮やかに書いてもらった。更に、裏面・下半分は二百七十三名の卒業生の氏名を、彫金者・柳山氏が彫った銅版がはめこまれて

いる。ア行の一番目が相沢成夫君で始まり、四段目のワ行の最後尾は渡辺昭三君で終わっている。私たち53回の入学は昭和十六年の四月で、生徒数は全部で二百七十三名だったと思う。その後、戦争がたけなわとなりその間、陸幼、予科練、陸士、海兵などを志願・出陣した生徒も多く、戦争末期のため五年間が一年繰り上げ卒業の四年になり、

さは高さ150cm、横幅170cm、厚さ20cmで、堅牢な土台の上に乗っている立派なものである。

青山五三回の役員が石碑建立の相談を最初に持ちかけた相手が、その当時の宮路正樹校長(第29代)で、温情ある良き理解者であったため、すぐ許可を得て、平成元年四月十日に建立計画書を同期全員に郵送・配布して事前にその趣旨の徹底をはかり、平成元年五月三十日に還暦を迎えた53回卒業生が寄贈建立した「新潟県立新潟中学校旧校歌」の石碑の建立除幕式を行った。当日は同期生約四十人が参列。終了後、完成祝賀会を割烹(だいなほ)大直(イタリア軒の脇)で盛大に開催された。寄付金の方は青山五三会としての参加意識を高めるため、一人平均二千元を徴収し、石材費、施工費、彫金代、書写のお礼などの費用にあてた。

さらに、その年の六月に湯沢で一泊二日の同期会を行ったときには、詳細にわたって建立完成の報告会を行っている。新校舎完成の暁には、正面玄関前庭に復元することも、宮沢校長先生(当時)に了解を得て工事を進めてもらった訳である。石碑の裏面上半分にある建碑趣意

書は、施工者の川口信夫君の文章であり、毛筆は彼が書いたものだと思う。

最後に建碑趣意書を記述して筆を擱きます。  
(平成十五年六月二十二日(日)記す)

**建碑趣意書**

吾等五十三回生は、同窓会中、最も波乱に満ちた学年でありました。即ち、大東亜戦争開始の昭和十六年に入学、終戦の昭和二十年に卒業、その間一年繰り上げ卒業を余儀なくされ、あまつさし最終学年は名古屋と長岡に学徒労働員に出勤し、また多くの級友が学徒出陣に参加し殆ど学業は行われず、勿論、まともな卒業式もありませんでした。然も、戦後の復興に於ける五十三回生の活躍は目覚しく、各界に多くの人材を輩出し青山健児の名を高めてきました。

また、同期生の団結は今も固く、めでたく還暦を終え、新しく平成の年を迎えるに当たり、校庭の一隅に校歌の碑を建立

し以って、母校の記念となれば幸いです。  
平成元年六月  
青山五三会



**旧校歌 歌詞の訂正とお詫び**

江口 直禎(56回)

先回の第七六号青山同窓会会報七ページに百十周年同窓会名簿掲載の旧校歌歌詞に誤りと題して小生の記事を載せたところ、さっそく間違いを指摘いただきました。51回生の歌川正博さんより、御風の原歌五番中、常盤の松の下かげには、下かげの間違いではないかということとです。

調べた結果、原歌も改訂後の歌詞も共に「下かげの」であることが判明しました。誠に恐縮ですがその点を確認され今後の活用に対応していただきます。訂正してお詫びいたします。尚小生の方で再確認しましたところ原歌も改訂後の歌詞もともに常盤の松は、常磐

(五) 光輝をかへぬ歴史もて 青陵健児ここにあり

(四) 時流はいかに濁るとも わが校風ぞ彌清く 文にはた武に幾千年 裏日本の覇者として

(三) いざわが友よもろともに 白砂塵なき丘の上

(二) 常盤の松の下かげの 誓盟を永久にかためつつ

(一) 青陵健児のかんばしき 栄誉をあげむ彌高く

**新潟市議会議員に当選**

石井 智裕 (79回)

79回(昭和四十六年卒)の小泉仲之君がこのたび新潟市議会議員に立候補、めでたく当選した。

元新潟県議会議員の職歴を生かし、市民と篠田市長とのパイプ役として活躍されることを祈念するものである。 ということでも時々集まって懇親を交わしている四六会で当選のお祝いを五月十日に新潟グラ



ンドホテルにて行った。小泉君からは支援のお礼と力強い決意表明がなされ、一瞬会場は引き締まったが、乾杯の後は駆けつけた友人より花束贈呈もあり和気あいあい、なごやかな酒席となった。久々に会った面々と談笑しているうちに時間となり、記念写真をとり万歳。あとは二次会三次会と週末の夜、時の流れるを楽しみながら古町通りに一人消え二人消え。楽しい一日となった。

- 当日の出席者以下  
白井行雄 吉田至夫 入澤郁文  
岡田均 片岡道夫 石井智裕  
木村泰博 佐々木隆輔 笹川博  
人 鈴木正昭 曾根隆夫 本間  
義康 前田和夫 横尾尚巳

ご案内

四六会では有志による臨時同窓会を時々行っています。六月二十一日にはゴルフコンペも開催されました。同期諸兄(諸姉)ご連絡をお待ちしています。

四六会代表幹事 白井行雄

(代々木ゼミ新潟校校長)

親交幹事 吉田至夫

(新潟クボタ社長 新潟高校PTA会長)

山芝幹事 片岡道夫

(日園社長)

ネットワークNGO活動と新潟、そして青山同窓会の可能性

高橋 敏哉(90回)

人的ネットワーク、それはグローバル化の深化の中、現実世界に拡大し続け、今や新しい知の創造の主体として認知されつつある自発的且つ自律的な機能的制度である。日本における国際協力NGO活動の世界も、ネットワーク型、アンブレラ型NGOというNGO間の人的ネットワークの形成を通じ、個別のNGOの活動を支援する新しい仕組みの時代に入った。

昨年、新潟県内のNGO約二十五団体が参加する「にいがたNGOネットワーク(Nネット)」が立ち上がり、新潟も地域型ネットワークNGOを持つ全国でも先進的な地域の一つとして評価を頂くようになった。Nネットの場合、各NGO間の協力を留まらず、行政、学校、

け、国際協力NGOの国内での役割として、幅広い世代の参加できる身近な国際協力活動を通じて地域コミュニティの再構築を図る試みも社会的意義を持ちつつある。

一般市民等他のセクターとの連携も設立当初から重視してきたという他地域に見られない特徴がある。八十年代以降の日本の「国際化」は、国境を越え人々の往来を促す「伝統的」な国際交流と、ODAを中核とした途上国への経済的支援という「伝統的」な国際協力の二つの軸がその中心にあった。しかしながら、冷戦後のグローバル化の急進、日本

本の「国際化」の二十年の歴史的评价は、この二つの軸を横断する新たな軸、即ち、国境を越えた市民組織の国際交流を通じて地球市民的課題を共有し、問題解決のため連携するという第三の軸の可能性を示唆している。又、日本の地域におけるコミュニケーションの喪失という現状を受

取れた企業化精神も必要である。同窓会も日本での人的ネットワークの一つの原点であった。新しいNGO活動への参加は、世代を問わない自己の再発見と理念の共有を通じ、青山同窓会の更なる発展へも繋がるのではなからうか。是非、意欲あふれる青山健児の結集を求めたい。

NGO活動は出来る範囲を自らが決め参加する自主的な活動である。又、ネットワークNGOにおいては総合調整的な組織運営能力、理念とバランスの

一九五一年春、三年生になってしまった。クラスはF組高橋正信先生担任。五月一日の水泳練習開始までの間は、ランニングのトレーニングを続けた。松波町

ハイティーン水泳 新中・新高

平田 大六(60回)

64 マラソンに強い水泳部

一九五一年春、三年生になって

信先生担任。五月一日の水泳練習開始までの間は、ランニングのトレーニングを続けた。松波町

録がある。

- 三年生 ①児玉光一 ②渡辺 義明 ③安食裕夫 ④田辺四郎 ⑤新保都安※ ⑥堀部重明※ ⑦青柳淳夫 ⑧山口了※ ⑨平田大六 ⑩藤田重夫 ⑪治田勇治 ⑫阿部秀男※ ⑬野村保夫 ⑭斎藤邦夫※

一年生 ①吉成昭一郎 ②江口良助 ③倉田明

水泳部員以外は※印だが、一位の籠球部の新保都安(60回)はもと水泳部だし、二位の堀部重明(60回)は陸上部の長距離選手だったのだ。更にそのメモには「青柳淳夫、沼田勇治と私の三人はスイパン一枚で走ったので石本謙三先生に泳いだほうがよいと云われたし、走り終わってから解良厚司(60回)

が水泳やつてるモンは心臓強いと感嘆」などと記されてあった。スイパンと言うのは競泳用の水泳パンツのことで、薄い絹製だったのだ、かなりのムレであったらうと、今は同情的に、そして羞(しゅう)恥的に回想している。

65 堂々たる陣容

練習開幕の直前の頃、青柳(山本)淳夫(60回)と部員募集のポスターを画いた。私が二年のときにもらった賞状で、ダイビング(飛び込み)のスカシ絵の入っているものをアレンジしたので。前述の日記には「四月十一日(水)市川豊(60回)が部員募集の演説をやるので昨夜原稿を書いた。午前中泳いで、午後からの演説を聞いた。ちょっとアガリぎみであった。つかへて大変だったが無事に終えた」とある。ゴクロウサン。たちまち十人近い一年生がプールへ来た。おまえらポスター見たんだろ? ちがいます。なら、あのエンゼツか? ちがいます。ああ? 純粹に泳ぎたいんだという。まあいい。そして、三年生(60回)キャプテン 平田大六、副キャプテン青柳淳夫、治田勇治、マネジャー市川豊 二年生(61回)江口良助、倉田(峰田)明 一年生(62回)伊藤亜郎、小山峯範、佐藤武司、斎藤健、



永井梓、野地一二、堀口忠五、  
榊山純、渡部正義  
堂々たる陣容ではないか。  
特に、一年生は出身中学校にプ  
ールはないから本格的な泳ぎは  
知らない。日に日に上達してい  
った。

その時、大黒善弥(50回)

### 第十五回青山OB会ゴルフコンペ

吉田徳治(83回)  
渡辺 毅(85回)

去る五月二十五日(日)、恒  
例のゴルフコンペを中峰ゴルフ  
倶楽部において開催しました。  
当日は暑くなく、快晴微風の絶  
好のゴルフ日和となりました。  
個人の部の優勝は村木修さ  
ん(62回卒)で、グロス88、ネ  
ット71.2で優勝されました。準優  
勝には高見清志さん(85回卒)、  
三位には風間士郎さん(64回卒)  
が入賞されました。ベストグロ優  
勝は、駒林進四郎さん(68回卒)  
がグロス83の好成績で優勝され  
ました。

好評の期対抗団体戦も、優勝は  
62期(平原康男、星野睦夫、村  
木修、渡辺富二雄の各氏)が、  
準優勝には64期(和泉田精太郎、  
小田島寿一、風間士郎、谷久の  
各氏)が輝きました。

監督が衝撃的な情報を持ってこ  
られた。  
「古橋広之進が長岡へく  
る！」  
あのフルハシですか?  
そうだ。コーチにくるんだ。

より行いました。表彰式では、  
上村光司会長(50回卒)のご挨拶  
に続き、吉田六左工門衆院議  
員、今回のコンペにはスケジュ  
ールが合わず参加いただけませ  
んでしたが、長谷川前市長にも  
ご挨拶いただきました。

幹事を拜命してから今回で  
二回目のコンペですが、いくつ  
かの反省点も見つかりました。

今回も五十人という大勢の方々  
に参加いただき、大変うれしく  
思います。口コミで徐々に参加  
人数が増えてお  
り、今後とも更  
に多くの方に参  
加いただけます  
よう努力してゆ  
きたいと思いま  
す。

回を重ねる  
度に若い方の参  
加も増え、年齢  
層が下がってき  
ております。今  
日も96回卒の江  
部則行くんが参  
加してくれて、  
グロス83とい

う好成绩を残しました。更に女  
性でも93回卒の黒井潤子さんが  
参加してくれて、当ゴルフ会に  
花を添えてくれました。

秋のコンペは、十月五日(日)  
に阿賀高原ゴルフ倶楽部で行う  
予定です。是非皆様方の参加を  
お待ちしております。問い合わせ  
せは吉田徳治まで。

電話  
〇二五—三八二—五一五一  
(第一電設工業株内)

### 新刊本のご紹介

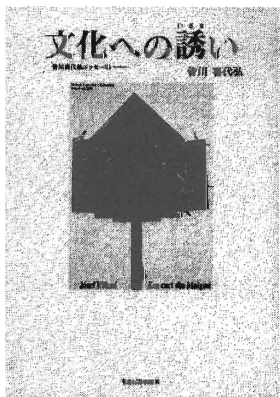
本校の旧職員の皆川先生の本が新潟日報に  
掲載されました。

新潟中学を、まて上京し、クとして追い求めてゆく。家や文人をはじめ、音楽、  
た会津八一は、病床の正岡が、やがて良寛敬慕へと迎へ、図書館、郷土の碩学などを  
子規を訪ねて良寛を紹介し、豊かな人間性をはぐくみ、対象にした二十数編に、優  
し、のち「僧良寛歌集」をむ文化への思いをふくらまされた文化人たちの回想や文  
贈ったのは有名な話、後せる一方、異国での多様な文化創造への願いがこめられ  
年糸魚川に逗留した相馬御文化の在り方を求める旅



第二章で  
は、著者描筆  
の地津川で晩  
年を終えた面  
伯等原野のか  
く、山紫水明

### 良寛・八一追い求め



が、画伯には日本橋の万代、読まない国に未来はない」など幅広く多彩な問題を筆  
桶をはじめ、出身新潟の舟とする図書館活動に視点を、文化活動への願望が  
江情緒などが遺されてい、置くなど、「安吾記念館」述べられている。  
第三章では「青年が本を  
への提言や、幼児期におけ  
第四章では、平成七年  
「会津八一と心をかよわせ  
た文人たち」との題下で、  
良寛以下三十人の豪華な文  
人たちの墨蹟、作品群を収  
集した展覧会を企画開催  
し、翌八年に「会津八一も  
う一つの世界」を出版して  
いる。

著者積年にわたるライフ  
ワークとしての執念を表現  
したが、八一傾倒への余話  
が、この章で披露されてい  
る。  
本書からは、八一や良寛  
を原点とする著者の、文化  
創造の提唱と実践に対する  
熱い思いが伝わってくる。  
斎藤 信夫  
(全国良寛会会長)

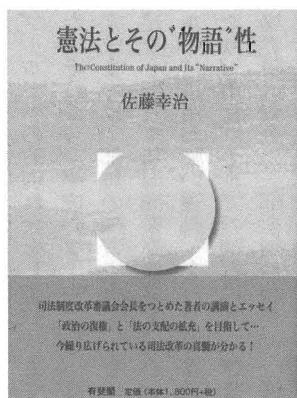
文化への誘い  
皆川 喜代弘著

### 同窓の新刊

### 「憲法とその物語」性

佐藤 幸治

有斐閣 1,800円



京都大学法学部の憲法学者  
おられる。

で、関西青山同窓会の会長の著  
者が、この十数年の間に新聞、  
雑誌、ゼミ会誌などに書き留め  
たものの中から選り出した、講  
演録や、エッセイである。  
京都大学の退官にあた  
つての最終講義「憲法学  
を生き延びて」や「希望と改  
革」に盛り込まれている  
厳しく難しい日本の今、  
何が必要か、希望をもつ  
て取り組むことを訴えて

第五終章で  
■新潟日報事業社(一九  
は、良寛在世(〇五五)

# 青山バトミントンクラブ

## 総会報告

日野浦 広昭 (77回)

五月二十四日(土) 十八時  
三十分より錦城閣にて平成十五  
年度の総会が開催されました。

平成十四年度の事業報告として

五月十七日(金)

海鮮亭羅言にて 総会

五月二十六日(日)

五頭C、Cにて

春季ゴルフコンペ

七月二十二〜二十六日

新潟高校体育館にて

現役合宿激励会

九月七日(土)

信濃川やすらぎ堤にて現

役、顧問、OB合わせて

四十五名参加しての焼肉

パーティ等で楽しんだ納

涼会

十一月二十三日(土)

新津C、Cにて

秋季ゴルフコンペ

行形亭にて

年末恒例の家族同伴懇親会

平成十五年二月七日(金)

# ボート部OB会

## 定時総会開催

三月二十一日

ボート部OB会は「青山艇  
友会」第二十六回定時総会を平  
成十五年三月二十一日(金)  
祝)、新潟市内の四川飯店で開  
催。出席者は青山同窓会から石  
田幹事長、新潟県ボート協会の  
原会長、顧問の五十嵐先生と吉  
田先生にOBで総勢十八名。

総会は、役員改選の時期で  
したがスムーズに進行。顧問の  
先生から、現役ボート部の活動  
や卒業生の進路等の状況報告な

渡辺 研二(75回)

ど。また、やすらぎ堤工事のた  
め平成十五年度中に練習水域の  
信濃川での出艇場所を移動せざ  
るを得ないとの情報もありまし  
た。ほか、新郵便番号記載の会  
員名簿を作ることも決定。

事業・決算報告や案などの議案  
審議終了後は別室の懇親会席に  
移動。大きな丸卓ふたつにわか  
れ、熟年・中年グループで大い  
に盛り上がり、締めは、懐かし  
の校歌、部歌、ますらおで。隣  
室から拍手をいただくおまけま  
でつきまりました。



昔話に花が咲いて...



締めは「ますらお」「部歌」で

当日出席者▽石田瑞穂(同窓会  
幹事長)、原正雄(県ボート協  
会長)、五十嵐達郎(顧問)、  
吉田巖(顧問)、加藤高弘(58)、  
行田宏(58)、内山真一(60)、  
坂上隆一(60)、大田英男(60)、

相馬一元(63)、佐藤勝弘(65)、  
笠原紘洋(68)、渡辺研二(75)、  
水沼眞一(78)、増井隆夫(79)、  
桜井優(80)、佐藤正昭(80)、  
長谷川聡(102)

# 青春応援団・青山水友会

横瀬 功(66回)

青山水友会は、本校が旧制  
新潟中学であった大正時代に早  
くも結成されました。水泳部に  
所属した卒業生の親睦を目的と  
する団体です。それが、昭和五  
十七年に再度結成され、活動を  
活発化させて今日に至っていま  
す。

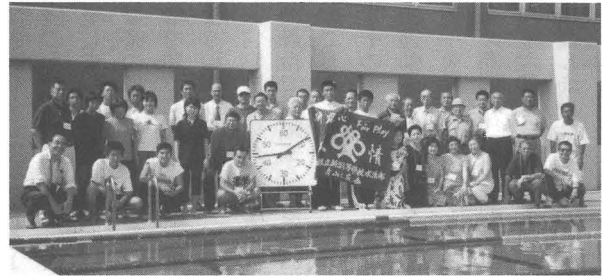
く、校章と小川和恵先生の筆に  
なる水泳部旗も作成しました。  
校長室に掲げてある会津八一  
の書の複製を試みて配布したの  
は、その高貴なる精神を引き継  
いで欲しいとの願いからでした。  
「之を涵すこと海の如く、之を  
養うこと春の如し」は、本校職  
員と生徒、とりわけ、水泳部員  
の精神指針にぴったりだと思  
います。

平成八年、新校舎建設のた  
めに、長年親しまれた「昭和の  
プール」へのお別れ会をしまし  
た。それから「平成のプール」  
完成までは、部員の練習場所不  
足を心配して新潟商業高校プー  
ルの“借用お願い運動”を行っ  
たり、市営プールでの練習に入  
場券購入資金の一部を贈ったり  
して、現役部員の活動を応援し  
ました。

私たちは、会員相互の親睦  
をはかるため、最新の名簿を中  
心とした「青山水友会報」を毎  
春発行して、すでに二十年に及  
びます。  
毎年五月の連休明けには、新  
入部員を迎えた水泳部に挨拶す  
るため、水友会幹部が学校を訪  
れます。それも、和気あいあい  
の楽しい年中行事になっていま  
す。

新潟高校は、大学受験準備に忙しい高校ですが、高校教育がそれだけに終わって良いはずがありません。高校生活から「受験勉強」の四文字を取ったら何が残るかと問われた時、何と答えるでしょうか？

水泳部員は、振り返って「自分は、青春時代の真ん中に、水泳部にいたのだ！」と想起して欲しいです。部員同士の安らいだ人間関係を心のオアシスとすることが出来れば、それは、きっと生涯掛け替えのない宝となるでしょう。



青山水友会総会（呉竹会と緑泳会をお招きして）

## 体操の歴史と青山体友会

中川 弘（58回）

第一回オリンピック大会（一八九六年明治二十九年）に体操は、正式種目として、採用されている。その前は十四世紀から十六世紀にかけて、原型として、ヨーロッパに於いて発生したと言われている。一八八一年明治十四年に、国際体操連盟が設立され、日本には、明治二十三年に、ドイツの軍人が、器械をつかった体操を、始めて紹介したと言われている。

昭和五年に全日本体操連盟

が呱呱の声を上げた。すなわち、日本の体操は、昭和に入ってからのものである。本県に於ては、大正十五年の体操教授要目の改正とともに、懸垂、跳躍、倒立転廻等が行われるようになり、授業や遊びの中で「やれる」「やれない」「できる」「できない」といった程度であった。東京では急速に進歩してきた平行棒や吊環等全く普及せず、相当長い間鉄棒と跳箱だけの時代が続いた。昭和七年当時小学校の教員

だった堀保利氏(34回S二年卒)樋口政忠氏(34回S二年卒)中学校教員の鷲尾吉光氏の三名が遥々十時間の汽車のゆられ第三回全日本選手権大会に出場したのである。三氏の成績は、それ程期待したほどでなかったが、初めて中央の空気にふれ、直接体験した試合の方法、競技のルール、各種器械の運動や技術等すべて目新しく、どんよくに吸収した事は、大きな収穫であった。三氏のリードにより、翌昭和八年に第一回県下選手権大会が開かれた。更に、樋口、堀氏は体操は特に幼少の頃からの訓練が大切なことに着目し、その頃大谷武一氏を中心として発案された低鉄棒運動にとりくみ、休みを利用して、上京し、この時の東京の宿舎が当時文部省体育研究所にいた近藤圓氏(38回S六年卒)の下宿である。その運動法は勿論、設計、施行まで

身につけて、帰郷。新潟市内に止まらず、広く県内の小学校に低鉄棒を普及した。それがやがて体操競技として、開花してゆくことになるのである。昭和八・九・十年頃は新潟中学校体操同好会として、試合に出場していたが、十一年頃に、正式に体操部として、予算をつけられた様である。昭和十五年八月に、先輩と後輩を結びつける青山体友会をつくるうとて発足し、機関紙「巴」と「車輪」が刊行された。体友会は十年位つづいたが、残念ながら消滅したが、昭和六十一年に復帰させ、平成十四年迄一年も休まず、つづいている。今年もまた十月に、十七回青山体友会をやる予定である。現在、体操部はないが、吾々の心の中に、永遠に体友会は、つづいている。報告は、次の同窓会報をごらん下さい。

## ”傘寿”を迎える

### 母校バスケットボール部

青山バスケットボールクラブ会長 小川 清常（48回）

母校のバスケットボール部（一九二三年）である。」と、青山百年史に載っている。時の名和長正校長は、バスケットボールの特性の着目、「校技とする」

と奨励した。わが「青山バスケットボール部の歴史は、この年をもって嚆矢としてよい。大正十三年、屋内コートが完成し、そのコートで新潟師範と初めて練習試合が行われた。大正十四年一月、新潟中学校の体操場で、市内三校リーグ戦（旧制新潟高校・新潟師範・新潟中学）が行われ、新潟中学が初優勝した。大正十三年、体操の中川忠作が着任、指導に専任、一層力をつけた。大正十四年、籠球部が正式に発足し、昭和二年（一九二七年）から、遊方会各部に部員制度が発足。生徒全員がいずれかの部に所属が義務づけられた。大正十四年二月、新潟県籠球協会が発会。その記念大会を兼ね、十月十七日明治神宮大会（籠球）北信越予選大会が行われ、男子の部において優勝し、出場権を得た。十月二十八日、一回戦粉河中と対戦、一蹴したが、二回戦で関西の雄、関西学院と対戦、善戦したが涙をのんだ。母校の戦績は、年を追って上向き、昭和七年には、母校創部十周年を祝して、青山籠球クラブ主催による県大会を、母校コートで開催した。この年の九月、東京での第九回全国中学校籠球選手権大会に出場、二回戦まで進出した。昭和八年五月、堀保利氏(34回)が監督の新潟クラブがハワイチームを迎えて対戦、二戦したが惜敗した。敗れはしたが学ぶことが多く、この貴重な体験が、昭和十一年九月の全日本中学校選手権大会一部優勝の榮譽を導いた。これを機に、昭和十二年・十三年度は、連続準優勝し、昭和十四年は念願の優勝を果たした。翌十五年度は、初めての全日本中学校体育競技総力大会が甲子園であり前年度優勝校として出場した。時節柄もありレギュラーの中、二名が軍関係の学校受験のため欠場、戦力低下となり、準決勝まで健闘したが一ゴール差で無念の涙をのみ、輝く伝統に汚点をつけた。しかしながら、明治神宮大会から名称を国民体育大会と衣替えした、第一回県予選兼県民総合体育大会（昭和二十一年）の中等学校の部に優勝した。以後、火災によるコート焼失のため練習も意に任せず昭和三十六年、ようやく県大会に準優勝、翌三十七年に優勝、全国大会に準優勝した。以後、伝統の底力を發揮して上位の成績を維持している。

なお、青山バスケットボールO・B会が、昭和四十六年八月二十五日設立され、会長・堀保利(34回)、副会長・倉田亨(36回)が選任された。後年、倉田副会長が辞任。小川清常(48回)が就任した。また、堀会長が、高齢の故で退任、小川

### 青山サッカーOB会活動報告

サッカー部は、昭和二二年に創部されました。OB会は、新潟県サッカー協会の副会長も務める大川健会長(59回・創部メンバー)・星野睦夫副会長(62回)を中心に、現在六〇〇人を越える会員がおります。

毎年、八月中旬に高校のグラウンドに一〇〇人近くのOBが集合し、夜の美味しいビールの為に、現役のサッカー部員と汗を流しています。総会・懇親会では、いつもお世話になっている「篠田旅館」において、自分の現役時代の話しや現況報告とともにサッカー部の活躍(毎年顧問の先生が作成した大会記録をOB会通信と一緒に会員全員に郵送しています)を肴に美味しいお酒を飲み、「丈夫」を

副会長が会長に、副会長に広川均(75回)がそれぞれ選任された。

母校バスケットボール部は、自ら「青山杯バスケットボール大会」を主催し向上に貢献している。

### 若杉 俊則(89回)

歌い楽しい時間を過ごしています。

平成一四年三月三〇日に、サッカー部創部五〇周年と母校新潟高校の改築によるクラウンド開きを記念して、OB会より伝統のえび茶のユニフォームを贈呈しました。主将の「伝統のえび茶のユニフォームを着られる事を誇りに思い、伝統に恥じぬよう頑張ります」という力強い言葉を聞いた参加者は、晴れの舞台で活躍する姿を思い浮かべておりました。

その選手達の活躍(私は、毎朝通勤途中に朝練習をしている選手を見えています。)と通算三日の高校総体出場を期待して、今年六月八日に、県大会決勝を観戦しました。惜しくも準優勝

という結果でしたが、えび茶のユニフォームがフィールドでボールをがむしゃらに追い走る姿に、感動を覚え、サッカーの素晴らしさを再確認しました。五十嵐先生の指導のもと、今後の大会での活躍を期待します。

最後に、「サッカーは少年を青年にし、青年を大人にし、大人を紳士にする。」(ビル・シヤンクリー元リバプール監督)

### 青山バレーボールクラブ

### 懇親会開催

計良 伸正(63回)

「四年に一回、オリンピックの年に」という申し合わせで総会という名の懇親会を開催しています。しかし、クラブ員の慶事などの際にも開かれていて、「オリンピック年」の申し合わせは、ややあいまいになっています。

最近では、平成十三年十二月十五日「望月彰先生の勲三等瑞宝章受賞を祝う会(他団体と共催)が開催されました。望月先生は48回生で、新潟高校バレーボール部監督として黄金期を築かれました。特に昭和二十八年は、県内無敗で郡山イ

という言葉があります。私を含め勝敗のみに一喜一憂しがちですが、サッカー部の全員が、サッカーを通じて良き高校生、良き社会人とこの言葉のように成長することを期待しています。

新潟高校サッカー部の活躍と会員相互の親睦を図る為、今後とも活動を続けたいと思います。



京都大学ではキャプテンとして関西大学リーグ二部優勝をはたしました。クラブの運営が橋本行雄(60)

### 青山ソフトテニスクラブ紹介

坂井 秋樹(96回)

青山ソフトテニスクラブはその名前のとおりソフトテニス部のOB会です。会員は第31回卒業の大先輩から最新の卒業生まで、総勢四百五十名を越える大所帯となっています。

会の活動は年一回の総会と懇親会、そして同日の日中には

回)、加賀田實(60回)、小杉秀一(61回)から小林政弘(62回)、計良伸正(63回)に託され、初仕事でした。石山芳昭(63回)、大槻修三(64回)、八木稔(64回)、鈴木幸(66回)、白井秀昭(64回)、青木忠信(83回)が幹事として活動しました。特に白井は、パソコン技術でロートルの弱点をカバーしてくれました。

新潟東急イン会場には県内外から三十五名の参加があり、「五本松のコースト」や「西堀のお寺での夏合宿」など、尽きぬ話題に花が咲きました。

新潟高校テニスコートにて現役を交えてOB戦大会を開催します。また、毎週日曜日の早朝には練習会を行い、市内の各種大会に出場しています。現役のサポートも大切な活動のひとつで、遠征やインターハイ・北信越大会出場時には費用の一部を会員

の活動は年一回の総会と懇親会、そして同日の日中には

の寄附より支出しています。

総会やOB戦には毎年四十名程度の参加があります。例年八月十四日に行われる為、それは熱い焼けるようなコートの上を走り回ると現役時代の辛い夏合宿が思い出されます。それでもみなソフトテニスが好き人間ですので、楽しそうにボールを追いかけ、汗を流しています。

総会後の懇親会では、先輩、後輩の隔てなく皆がソフトテニスの話題で盛り上がりです。締めは丈夫が恒例となっており、全員で歌います。

早朝練習は新潟高校のテニスコートをご厚意で使わせていただいております。いつでもラケットを持ってコートに来るこ

とが出来ます。無理せず、気楽にやっていますか、技術の上達は望めませんが、日頃の運動不足を解消するには最適です。

そして練習の成果を発揮すべく、市内で春と秋に行われるチーム毎の団体戦や個人の市民戦などにエントリーしています。成績もクラス優勝するなど、練習量にしてはいい方かと思えます。

私たちが青山ソフトテニスクラブの活動を色々書かせていただきましたが、無理せず楽しくやる事が続けていくコツだと思っております。これからも会員が楽しく集まれる場所として継続させていきたいと思えます。

### 福田 実君を偲んで



堀 一 (75回)

たので全文を掲載し、追悼の言葉に変えさせていただきますが、テ

任と致します。尚、同日、福田様のお計らいで私たち同期で「偲ぶことば」と云う故人に対するメッセージを募り、全国より寄稿して戴きました文章をまとめて過

### 弔 辞

日、仏前へ報告させて頂きました。福田実君、いやお別れの今日だけは普段どおりに実と呼ばせてください。

実、君との付き合いは附属新潟小学校時代からだから、もう半世紀近くになるわけだけど、まさか実との別れがこんなに早く来るなんて、思っても見なかった。実、君は小学校のときから、勉強が抜群にできて、体育も万能だった。うちの学年のトップランナーとして、いつも輝いていた。何年生のときからか、忘れてしまったけれど、俺達は二人だけで学校の成績を比べっこすることにしていたよな。学校の男子トイレにこもって、成績表を見

せ合っていたんだけど、いつも実の方が上で、今思うと俺は実の精神安定剤をやらされていたよな、気がする。極まれにこっちの方が成績が良いときがあると、実は「そんな馬鹿な」を繰り返して、えらく悔しがるのがおかしかった。負けず嫌いの性格は、中

学行つても変わらなかった。陸上部で黙々と練習に励みながらも、将来への意欲を隠さずに語る人間だった。「うちの会社には東大卒もいる、彼らを使うんだから俺も東大に入る」と語りかけ、大きな会社の長男に生まれたプレッシャーを楽しんでいるようでもあった。新潟高校時代にも東大進学を目指しながらもガリ勉タイプではなかった。こちらがチャランポランな高校生活を送っている

と、「おまえ少ししっかりしろよ」と、かつての精神安定剤に気を使ってくれるやさしさが実の持ち味だった。そして、予告通りに東大に受かって、当時の建設省に入った。まさにエリートコースを地で行くような人生だった。福田組を継ぐために、新潟に戻ってきてからも、しばらくは遠い存在だった。実の言動は、新潟の既存の価値観にあえて、異を唱えているように見え、正直

言って少し反発を憶える時もあった。その認識が変わったのは、新潟青年会議所の理事長をやった頃からだった。実は、「自らの手で新潟の将来ビジョンを描こう」と提起し、ウエルカムシティ

新潟を作り上げた。その問題意識に大いに共感させられ、それ以降、立場の違いはあったものの、話し合う機会が増えて、いろいろと勉強もさせてもらった。新潟における経済人としての実の貴

重さは、正統派の立場を貫いた点にあると思う。バブルのときに急成長している建設会社の話をこちらが持ち出すと、大いに興味を示して話を聞きながらも、「でも福田組はそのやり方は取らない」と明言した。会社の舵取りや新潟県建設業会の運営、そして街づくりの視点へも正当性という心棒で貫かれていた気がする。新潟青年会議所の企画で二十年の秋、りゅうとびあの能楽堂で新潟の将来について対談させてもらったのも、今となると楽しい思い出だ。こちらが変化球を投げて、実は真正面から新潟を論じていたことが記憶に残っている。

最後に、そして最もお世話になったのは、昨年の新潟市長選挙だった。立候補の気持ちを決めたとき、一番難しい立場のはずの実が「同級生が出るなら、個人的に応援するのが当然じゃないか」と言ってくれた。今思えば、その頃実と病魔との戦いがすでに始まっていたわけだが、実は俺の携帯に何度も電話をくれて、何かと気遣ってくれた。大事な闘病のときに気を煩わせていたかと思うと、申し訳ない気持ちで一杯になる。本当にすまなかった。

何とか俺も当選させてもらったが、実がそれを我が事のように喜んでくれたと聞いた。君の厚い友情に只々感謝するばかりだ。新年の新潟県建設業界の交換会では協会長として塩野七生の著書「ローマ人の物語」中、すべての道はローマに通ずるをときながら、ハードソフト両面からインフラ整備の重要性を説いた実の挨拶は見事なものだった。しかし、それが君の遺言になってしま

うとは・・・、実、新潟はこれからこそあなたがあなたを必要としていたはずだ。それなのに花の季節を 残念でならない。でも、一番無念だったのは、これから更に人生の大きな花を咲かせるはずだった実自身だったろうから、これ以上は言うまい。我がクラスのトップランナーだった実、君は鮮やかな走りの軌跡を残して逝ってしまった。君が新潟に蒔いてくれた正当性の種をこれからしっかりと受け継いで行きたい。そして、いつの日にかあの世で君と再

会したら、もう一度人生の成績表を見せ合いつこしよう。その時、実に笑われないよう、もう少し俺も頑張ってみようと思う。そうすることが・・・。暫しお別れ。実ありがとう。

平成十五年四月十四日 新潟市長 篠田 昭

# 岩田ハスイ(はず枝)さんご逝去

旧職員 上杉 雅之(60回)



平成13年 ご自宅の玄関前にて

行事の助  
つ人とし  
て仕事を  
手伝い、  
平成十四  
年迎えた  
母校百十  
周年を見  
届けられ  
たことに  
なります。

約半世紀にわたってわが青山同窓会の事務局職員として同会の発展の要となつて働いてくださった岩田はず枝さんが、五月二日、済生会第二病院で逝去されました。享年八十一歳。

ご本人の希望で、通夜・告別式はご遺族・親族と近親の者だけが参列、小規模ながら、しめやかに五月四日、五日と行われました。

岩田さんは、新制新潟高校の発足から間もない昭和二十六年に、青山同窓会の前身とも言える「青山倶楽部」での勤務を振り出しに、平成三年に後進に道を譲つた後も、総会などの大

午後、三浦さんより総会手伝いの依頼電話あり。体調と合わせて考えていたことを左記の理由で答える。

一、体調がよくない。

二、百十周年を終えたら「青山」の仕事はやめようと考えていた。昭和二十六年より満五十年になる。三、年齢も八十才となる人がみたら歩く姿も老人となつたと思う。

四、「これでいいです」と断られる前に「是非来て頂きたい」と願われている時にいさぎよく身を引く。

五、人間は引きぎわが一番大切。誤ることのないように美しくいさぎよく引退したい。三浦さんも了承。

五月十二日 上村会長さんに、「青山の仕事はやめさせていただきたい」旨電話する。

五月五日の告別式では、岩田さんのお嬢さん阿部喜美子さんに請われて弔辞を捧げました。昭和二十七年に母校を卒業し、同四十一年に母校に奉職後恩師の沢田先生に同窓会の仕事にも精を出すよう命ぜられてから、岩田さんのご指導で今日まで後輩のためやってこられたことに謝意を表すためでした。その弔辞を次に転載させていただきます、改めて岩田ハスイさんのご冥福をお祈りいたします。

約二十年も前になりますか。九十回卒業生を送り出した記念に、私たちの学年の先生方が九州旅行を計画したときには「紅一点」として参加して下さいました。確か六十才におなりになっていたでしょうか。旅先では「上品な初老の越後美人を中心にする越後の上杉軍団」と人気を博し歓迎され、楽しい旅ができたのも今はなつかしい思い出です。

家庭的には、ご主人亡き後一人娘の喜美子さんを立派に育て上げ、喜美子さんは阿部徳義氏というよき伴侶を得られ二人のお子さんに恵まれました。

## 弔辞

岩田ハスイさん！こんなに早くお別れすることになるとは。ほんとうに驚くと共に誠に残念無念です。それというのもしか昨年の今時分でしたか、近くのスーパーでお嬢さんの運転する車の中にお元氣な姿を見つけ、しばらくぶりに雑談をしましたよね。今日目の写真で拝見する岩田さんのあのおだやかな笑顔もやさしいお声も健在でした。今にして思えばあの時が最後だったのですね。人の世のはかなさを身に滲みて感じております。

私が母校の新潟高校に赴任して来たのが昭和四十一年。その十

数年ほど前から岩田さんはすでに母校の青山同窓会の事務局で仕事をしておいででした。火災で消失した新潟高校の校舎復興のための募金活動が中心で、同窓生や関係者からは「焼け跡のマドンナ」として感謝されまた慕われていたと聞きました。

同窓の恩師の沢田先生のご退職後、私が同窓会の校内幹事を任されてからは、岩田さんには仕事の面で頼りっぱなしで、まさにあなたは「同窓生のおかみ」的存在でした。同窓生の消息については殊の外くわしく、各界で活躍する著名な同窓生の業績についてはまさに「生き字引き」でした。多くのことを教えていただきました。

日常的には同窓生との事務連絡や会計の他、生徒のために、昼食時にパンと牛乳や同窓会グッズの販売をとりしきっておられました。パンが売れ残ると校内放送で「パンと牛乳まだあります。欲しい人買ってください」。このアナウンスは生徒の耳に親しく語りかける優しい口調で、大いに受け、卒業後の学生の間では母校の思い出のひとつとして今も話題になっています。

約二十年も前になりますか。九十回卒業生を送り出した記念に、私たちの学年の先生方が九州旅行を計画したときには「紅一点」として参加して下さいました。確か六十才におなりになっていたでしょうか。旅先では「上品な初老の越後美人を中心にする越後の上杉軍団」と人気を博し歓迎され、楽しい旅ができたのも今はなつかしい思い出です。

家庭的には、ご主人亡き後一人娘の喜美子さんを立派に育て上げ、喜美子さんは阿部徳義氏というよき伴侶を得られ二人のお子さんに恵まれました。

岩田さんはお孫さんの教育には殊の外関心を持たれ、時に大学進学について質問などを受けることがありましたが、いつもお孫さんへの信頼と期待に溢れるものでした。お聞きしますと現在長男のお孫さんは日本を代表する大手電機メーカーの若手戦士として実力を買われており、弟君は大学生として今後が期待されます。おばあさまとして満足しておられたこととご推察いたします。

岩田さん、あなたの人生の大半はわが青山同窓会の発展に捧げられました。新潟高校卒業生の日本全国での活躍の原動力は、岩

田さん、あなたがその一翼を担ってこられたことを私は疑いません。この春には百十一回目の卒業生が青山同窓会に仲間入りし、会員数は三万五千人を越え、更なる発展が望めます。青山同窓生の一人としてここに厚くお礼を申し上げます。青山同窓会育ての親、岩田ハスイさん、あの世からは非見守っててください。ほんとうにありがとうございます。合掌。

平成十五年五月五日

上杉 雅之

## 福山 健氏 (39回) 逝去

39 回卒の学年幹事や同窓会本部の監事としてとして長年ご尽力いただいた、福山健さん（大正三年五月十一日生れ）が平成十五年五月八日に死去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

## 母校は今

新潟高校の六月といえば、青陵祭であります。青陵祭という言葉を聞くと、胸が熱くなる同窓の方々も多いのではないのでしょうか。今年は六月十四日（土）に行われました。暦の関係で、例年よりも少し遅く梅雨入りによる雨が心配されましたが、開催前日の夜雨が降ったものの、翌朝は快晴で、いつものように青陵祭晴れのもと盛大に開催されました。

今年は、一連合が、競技・応援・連想・バックのすべての部門で一役をとり、完全優勝を成し遂げました（あんパン十一個獲得）。二年一組というのは通称私文クラス（数学を選択しない私立文系大学を志望する生徒が多い）で、連合をまとめ素晴らしいパワーを発揮してくれました。私文が強い年というのは、進学成績がいいので来春を期待したいところです。

グラウンドが完成して二年目と今年、例年よりもたくさん競技が総体で活躍をしました。一番学校を湧かせたのはサッカー部であります。準決勝で強豪東京学館を2-0で破り、決勝は新潟西高校と対戦。お互い五分の戦いで両者ゆずらず、延長戦を終了しても0-0、PK戦に突入、残念ながらPK戦は2-1で破れ、あと一步で全国大会の切符を逃しました。

今年、全日制を卒業し、青山同窓会に入会した新入会員は四〇一名で昨年の三九一名より十名多い人数となりました。その進学先は大学・短大進学者が二六七名で昨年より九名増加しました。就職が一名、浪人等が一三三名でありました。その結果、進学率が六六・六%となり、昨年を若干上回りました。それでは、今春の入試結果の特徴を現役を中心に述べてみます。

① 東京大学の合格者は減少しましたが、医学科の合格者数が増加し、合計数が二〇名となりました。② 合格率が昨年より減少し、40%を割りました。③ 新潟大学の合格率が50%を割りました。④ 東北大学の合格者が二〇名を超えました。

①について・・・東京大学の合格者は現役が四名（文系・理系ともに二名ずつ）で、昨年より減少しました。やはり、理系の成績上位者が医学科を受験したのが理由だと思います。そのためか、医学科については合格者が多く、ここ最近では最も多い結果となりました。合計数が二〇名台になったのは四年ぶりであります。

②と③について・・・今年も新潟大学の合格率が芳しくなくそれが影響して、全体としても昨年より合格率が下がりました。新潟大学の合格者が減少しましたが、東京学芸大や埼玉大といった大学の合格者が増えました。

④について・・・医学科に二名合格するなど東北大学について

## 青陵健児 総体大活躍

今年、例年よりもたくさん競技が総体で活躍をしました。一番学校を湧かせたのはサッカー部であります。準決勝で強豪東京学館を2-0で破り、決勝は新潟西高校と対戦。お互い五分の戦いで両者ゆずらず、延長戦を終了しても0-0、PK戦に突入、残念ながらPK戦は2-1で破れ、あと一步で全国大会の切符を逃しました。

## 大学入試結果

今年、全日制を卒業し、青山同窓会に入会した新入会員は四〇一名で昨年の三九一名より十名多い人数となりました。その進学先は大学・短大進学者が二六七名で昨年より九名増加しました。就職が一名、浪人等が一三三名でありました。その結果、進学率が六六・六%となり、昨年を若干上回りました。それでは、今春の入試結果の特徴を現役を中心に述べてみます。

① 東京大学の合格者は減少しましたが、医学科の合格者数が増加し、合計数が二〇名となりました。② 合格率が昨年より減少し、40%を割りました。③ 新潟大学の合格率が50%を割りました。④ 東北大学の合格者が二〇名を超えました。

①について・・・東京大学の合格者は現役が四名（文系・理系ともに二名ずつ）で、昨年より減少しました。やはり、理系の成績上位者が医学科を受験したのが理由だと思います。そのためか、医学科については合格者が多く、ここ最近では最も多い結果となりました。合計数が二〇名台になったのは四年ぶりであります。

②と③について・・・今年も新潟大学の合格率が芳しくなくそれが影響して、全体としても昨年より合格率が下がりました。新潟大学の合格者が減少しましたが、東京学芸大や埼玉大といった大学の合格者が増えました。

④について・・・医学科に二名合格するなど東北大学について

は良い結果であったと思います。ただ、法学部の合格者がいなかったのが、今後の定員減を考えますと課題となります。

〈私立大学〉

今年も合格者数がここ五年間では、最も多くなりました。特に、慶応大、中央大、明治大といった大学の合格者が増加しています。そのためか、国公立の合格者が減少したにも関わらず、進学率が増えたという状況になりました。新潟高校の生徒は国公立大・私立大を問わず首都圏志向が強いと思います。首都圏の難関私立大は相変わらず合格しにくい状況であります。すべり止めという気持ちでなく、第一志望であるという気持ちで臨んでほしいと思います。

話は変わりますが、今年の2年から夏休みに進路体験学習を行うこととなりました。その際、同窓の方々には好意的にご協力をいただきまして、本当に感謝しております。今後とも、後輩の進路実現のため同窓の皆様のご理解をいただきますとともにご協力をお願い申し上げます。

